

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270400664		
法人名	株式会社 おおこし		
事業所名	グループホーム ひだまりの家		
所在地	千葉県若葉区東寺山町1067-9		
自己評価作成日	令和3年2月12日	評価結果市町村受理日	令和3年5月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと		
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生1107-7		
訪問調査日	令和3年3月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご家族・利用者様の希望に応えながら、楽しく安心して生活できる支援
地域住民に理解してもらえるように、行事等で交流を深めていく
利用者様の急変に迅速な対応が取れる支援

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自立支援を大切にしており、すぐに介助に入るのはな見守ることで次の行動を促すようにしている。また、食事の下ごしらえ、食器洗い、洗濯物たみ、掃除などにも参加してもらっている。終末期が近づいた時点で、医師、看護師、家族、職員でカンファレンスを実施し、看取り計画書を作成して支援している。コロナ禍により外出も難しいが、近隣の散歩や外気浴を実施するなど、できる事に取り組んで利用者の日々の暮らしを支援している。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各ユニットに基本理念を職員が見やすいところに掲示し、理念を意識した介護に取り組んでいる。	理念は「個人の尊重、一人ひとりに合わせた役割を見つける、安全と衛生」等を柱としており、ホームページ及び職員の見やすいところに掲示している。管理者、職員は理念を日常生活で実践できるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	本来ならば、夏祭り・芋煮会、自治会主催の文化祭に利用者の作品を出展しているが、コロナウイルスの影響で全て中止になっている。	地域との交流は盛んである。夏祭り、芋煮会や文化祭への出展などに参加しているが、コロナ禍により中断している。今年度は、ホーム内で金魚すくいやヨーヨー釣りなど縁日の雰囲気を楽しんだ。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナウイルスの影響で地域との交流も出ていないので難しい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在は書面開催で会議を開き、情報を提供したり収集したりしている。	運営推進会議は自治会長、地域包括支援センター、民生委員、シニア会からの参加があり、併設の小規模多機能型施設と合同で実施しているが、本年度は書面開催としている。議事録は参加者、職員、家族に回覧および送付をしている。	運営推進会議の書面開催の良い点は日時に左右されず参加可能であることである。この機会にさらに利用者家族に参加を促し、意見を収集することもよいと思われる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	施設運営や介護保険等について分からない事があれば、連絡を取り質問している。	市の担当課とは相談できる体制を構築している。また、地域包括支援センターとも連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は行っている。個人については1名だけベッドの4点柵をしている。	転倒リスクに対応するため一時的に4点柵を使用していたが、現在は解除している。その際もマニュアルに沿って対応した。身体拘束適正化委員会は3か月に1度実施し、議事録は職員に回覧している。また、年1回外部研修を受講した職員が、伝達研修をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年施設内研修に取り入れている。外部研修にも毎年参加させている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見を利用している利用者はいないので、現実味がないが、必要な制度なので学ぶ機会を設けていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は必ず説明をして、わからないことがあればいつでも聞いてくださいと話している。内容改訂の時も家族に書面にて得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	些細な疑問点でも気兼ねなく質問出来たり、家族の要望も相談しやすいような体制は取っている。	面会時や電話の時に家族からの意見を聴取している。また、利用者からは普段の会話の中で聞き取るようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	責任者会議やユニット会議を通し、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。また、定期的に社長とマンツーマンで話ができる機会も作っている。	責任者会議およびユニット会議などの他、法人経営者が年に2回、職員と直接面談して意見を聞いている。職員の意見からコロナ対策としてのアクリル板を設置するなど、反映に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の事を公平な目でしっかり観察し給与水準を考慮している。また、個々の意見も聞き、職場環境の改善も積極的に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修や勉強会に行く機会は設けている。施設内研修も行い個々のスキルアップをする為の環境も整えてくれている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナウイルスの影響で現在は取り組んでいない。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人や家族からよく話を聞いて、安心して生活が出来るように、各職員にも家族の要望を伝え、信頼できる関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族等の悩み・不安・要望等細かく聞き、各職員とも共有し家族等に安心を与え、信頼が保てる関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が何を望んでいるのか？また、本人の状態を見極め、必要な支援をするように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来る事は職員と共に行き、出来る能力は持続させながら、時には頼り、頼られる関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話やお便りで本人の状況を伝えたり、本来ならばいつでも家族が遊びに来れる環境を作っているが、コロナウイルスの影響で面会はお断りしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルスの影響で今年度は出来ない。電話での関係になってしまっている。	現在普段通りの面会は難しい状況であるが、家族や友人1名だけ居室内で10分間面会できるよう支援して、関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	生活してきた環境がバラバラなので、職員が間に入り利用者同士の関係が確立していくように支援している。また、利用者同士で支えあいながら、信頼関係が築けるように支援している。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホーム退所後も必要に応じ相談・援助は行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人・家族から生活習慣・生活歴を聞き、出来るだけ希望に添えるケアをしている。	日々の会話や、表情、家族からの情報、入居前の生活歴から、思いや意向をくみ取り、個別記録・業務日誌に記録して職員間で共有し支援に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時はもちろんだが、入所後も日常の会話から生活歴や暮らし方・趣味等を聞き出し各職員と共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身状態や新しく発見した有する能力は、各職員と情報を共有している。また、日々の過ごし方で有する能力を奪わないようなケアに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議で職員の意見を聞き、課題等は話し合っている。サービス担当者会議はもちろんだが、日々ご家族様の意見や要望を聞き入れ、本人に最適な介護計画を作成している。	毎月のユニット会議で、利用者の現状について職員間で共有し、家族の意見を含めて、現状に即した介護計画を作成している。年1回の見直しを基本とし、状況の変化に応じて随時見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	誰が読んでも様子がわかるような記録を取るようにしている。日常と違う出来事は、記録だけではなく必ず口頭でも情報を共有し、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々変わる状況に対応できる体制はとっている。型にはまったサービスにとらわれず、柔軟な支援ができる体制になっている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルスの影響で自治会・シニア会との交流が途絶えてしまっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医の月1回の往診と緊急時には電話で相談し、支持を仰いでもらい健康管理に努めている。総合病院とも医療連携を結んでいるので、休日・夜間の急変時も受け入れてもらえる支援をしている。	月1回協力医が往診をしている。訪問看護師も月1回来ており、状況に応じて協力医と連携を図って利用者の健康管理をしている。専門医受診は家族や職員が同行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護に月3回訪問して頂き、利用者の状態を伝え、適切なアドバイスをしてもらるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は利用者の既往歴やADL等を正確に伝えている。また、治療方法や経過観察は担当医・担当看護師・家族等に情報を聞くようにしている。家族のいない利用者は、施設責任者がキーパーソンになることもある。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の方針は早期の家族と話し合い、家族の希望を聞き、今後の対応に向けて相談している。また、主治医を交えて情報の共有をし支援に取り組んでいる。	利用開始時に、重要事項説明書で重度化対応、終末期ケア対応指針を説明して同意を得ている。終末期には、主治医、家族、職員、訪問看護師で話し合い、看取り計画書を作成して利用者に寄り添う支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時にリーダー等管理者がいなければ、すぐに連絡をして指示を仰いでいる。連絡がつかない時は経営者に連絡したり、現場職員で相談し合い初期対応等行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域との協力体制は推進会議等で自治会に協力の依頼はしている。自身の時は全員が被災者なので、施設に残っていても大丈夫なように非常食を備蓄している。今春に発電機も設置予定。	年2回、火災を想定した避難訓練を実施している。運営推進会議で、自治会から協力の申し出があり、地域との協力体制もできている。備蓄品や発電機も準備している。また、災害時にホームとして協力できる事を地域に発信している。	昨今は想定外の災害も多く発生しており、様々な場面を想定した訓練の実施が期待される。また、発電機などは点検を兼ねて実際に動かしてみることも必要と思われる。

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症状が酷くても個々の人格は尊重している。声掛けや対応もプライバシーの侵害にならないように配慮している。	利用者一人ひとりを尊重した声かけ、対応ができるよう、接遇研修をおこなっている。また、プライバシーへの配慮としては、居室に入るときはノックをするなど基本を大切にしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけ利用者の思いや希望に応じてあげたいが、自己決定出来ない利用者もいるので、その場合は利用者の事を思いながら職員が考えている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースに合わせた支援を心掛けているが、状況によっては業務が優先してしまうことがある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の整容や衣服の汚れがある時は着替えを促したり、外出や誕生会の時も身だしなみに気を付けているが、コロナウイルスの影響で外出は全く出来ていない。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備や片付け等出来る事は利用者と一緒に行っている。職員も同席し昼食は同じ食事を一緒に食べている。	調理専任の職員が栄養のバランスを考えた食事を提供している。職員は利用者と一緒に、会話を楽しみながら食事しているが、現在は感染予防のため会話は控えめにしている。土曜日はカレーの日として利用者と職員と一緒に調理したり、利用者のリクエストで、お弁当やお寿司をデリバリーして楽しむこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量の少ない利用者にはチェック表を付けて全職員が把握できるようにしている。食事形態も利用者に応じミキサー食やトロミ水にして対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの促しや介助は必ず行っている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自ら排泄の訴えが出来ない利用者にはチェック表を付けて排泄パターンを把握しトイレ誘導している。自立している利用者でもトイレの間隔が空いているようなら声掛けをしている。	排泄の自立に向けた取り組みをしており、一人ひとりの排泄のタイミングを職員間で共有して、トイレ誘導をしている。また、水分摂取量をチェックして、自然な排泄に繋がるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の利用者には主治医と相談し便秘薬の処方と調整を行っている。また、水分摂取量も気にかけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日と時間は決まっている。個々のプライバシーを保ちながら入浴は楽しんでもらっている。	入浴は基本週3回としているが、本人の希望、体調に合わせて、楽しんで入浴できるように支援している。職員とゆっくり話をする時間にもなっている。季節ごとに、ゆず湯、菖蒲湯などでも楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自立している利用者は自由に居室へ行き休息している。自力歩行が出来ない・意思が伝えられない利用者は、状態を観察して休息が取れるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が服薬情報シートの置き場を把握し、いつでも見る事が出来るようになっている。誤薬が起きないように2人の目で確認してから服用してもらい、落薬が無いように飲み込むまで確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で利用者の得意な事や好きな事を見つけ、色々なお手伝いや楽しみを提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルスの影響で買い物へは行けていない。散歩には行っている。家族との外出もご遠慮してもらっている。	お花見や、お祭りなど、季節ごとの外出を計画しているが、現在はコロナ禍により出来ない。近隣を散歩したり、ホームの庭にベンチを置き、日光浴をするなど、外気に触れる機会を持つようにしている。	

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの利用者はお金の管理が出来ないので、こちらで管理をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて電話をしたり、手紙のやり取りをしている利用者もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の場所は常に清潔にしている。 壁面には利用者や職員が作った作品や季節にあった飾り物を飾っている。	リビング、廊下の壁には利用者と一緒に作ったちぎり絵や折り紙作品を掲示している。照明、湿度、温度の管理、換気には配慮して居心地良く過ごせるようにしている。エントランスには季節の花が植えられていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの席は色々な配慮をして決めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時は使い慣れた家具や衣類を持ってきてもらい、レイアウトは利用者や家族の意見を尊重している。危険と思われる家具等は先にこちらから説明をしている。	居室内は利用者、家族でレイアウトし、使い慣れた家具や写真などを持ち込んで、入居前の環境に近い環境をつくるようにしている。絵が趣味の利用者は画材を持ってきて楽しんでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物が古くなってきたが、細かな内装工事等行い使いやすさ・安全への環境作りに務めている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと